

3M、サステナビリティに関する 「2023 3M ジャパングループ インパクトレポート」を発行

スリーエム ジャパン株式会社（本社：東京都品川区 代表取締役社長：宮崎 裕子）は9月12日（火）に「[2023 3M ジャパングループ インパクトレポート](#)」を発行しました。

本レポートは、3Mが発行した「[2023 Global Impact Report](#)」（英語版）の日本国内のステークホルダーに関わりの深い箇所の抜粋と、2022年度の3M ジャパングループのサステナビリティ活動に関する情報をまとめています。



◆レポート概要

3M ジャパングループのサステナビリティに関する取り組みについて、「サイエンスで循環型経済に貢献」「サイエンスで気候変動に貢献」「サイエンスでコミュニティに貢献」という3つのフレームワークに沿って紹介しています。巻末にある3M ジャパングループの各種環境パフォーマンスデータの一覧表から、過去3年間の進捗を確認できます。

◆コーポレートサステナビリティ担当部長 永野 靖彦のコメント

「3M ジャパングループでは、社会の重大な課題を解決し、持続可能な社会を実現するとともに、持続的に成長していくためには、サステナビリティへの取り組みが不可欠であると考えています。3Mはグローバル規模で社内外のパートナーとの協力のもと、温室効果ガス（GHG）、水、廃棄物、エネルギーの複数のフットプリントについて取り組み、大きな成果を生み出しています。例えば、グローバル全体の再生可能エネルギー率については2025年で50%予定のところを2年早い2022年に達成し、日本においては製造開発拠点の相模原事業所の電力使用を2022年から100%再生可能エネルギーに移行しました。今後も3Mのサイエンスとイノベーションを活用してサステナビリティを高め、より目標の達成に向けて取り組むべく、3つのフレームワークに引き続き注力してまいります」

◆「2023 3M ジャパングループ インパクトレポート」は[こちら](#)からご覧いただけます。

◆「環境ソリューション製品カタログ」は[こちら](#)からご覧いただけます。

【3Mについて】

3M(本社：米国ミネソタ州)は、サイエンス（科学）が明るい未来を創造すると信じています。人びと、アイデア、サイエンスの力を解き放つことによりさらなる可能性を模索し、世界中の社員がお客様、地域社会、そして地球の課題を解決するために取り組んでいます。人びとの暮らしを豊かにし、「これから」を創り出すための3Mの活動は[3M.com/news](https://3m.com/news)をご覧ください。3M ジャパングループについてはnews.3mcompany.jp/news-centerをご覧ください。